

「子どもは地域の宝です」

今もこのコピー、存在しているかしら？
十数年前にテレビCM やまちで 時折見かけていました。
まだ見ることができるかは定かではありませんが、この「心」は、変わらず松江のまちに存在しています。

子育てを助けてくれる人

生後間もなくから、乳幼児、小学校、中学校、高校、大学…子どもが成長するなかで多くの人と出会います。親や家族、幼稚園・保育所や学校の先生などと同じように、子どもの健やかな育ちを共に願ってくれている人たちのなかに「地域の人」が居ます。職業としてではなく、“自分が住んでいる地域の子どもたちに自分ができることをしたい”と、ボランティアをしてくださっています。その多くは先輩ママやパパ（パパ&ジジ）。個人、グループ、団体・組織…その形も、活動も様々。今回は、子どもが生まれてから早いタイミングで出会う地域のボランティア「まあま」さんを紹介します。

まあま

母子保健推進員協議会の呼称で、松江市内全域にメンバーが居ます。ピンクのエプロンがトレードマーク！市や公民館などが実施する「わいわいサロン（乳幼児健康相談）」や乳幼児教室等の会場で、お母さんの子育て相談を受けたり、健診時の託児、遊びの紹介、自主企画イベントの開催などをしたりしています。「まあま」は、赤ちゃんが最初に発する言葉。また、子育てを頑張るママに「まあまあ」ゆっくりと一息入れて、という激励の気持ちが込められています。発足時は市からの委嘱でしたが、今は自発的な登録が多く、「子育て中に先輩ママからよくしてもらったから、今度は自分ができることを！」といった方々がメンバーは毎年増えているそうです。

まあまメンバーの
お問い合わせは→

【お問合せ先】
松江市保健センター ☎ 0852-60-8174



ルポ

法吉公民館で開催された「わいわいサロン」をのぞいてみました！

「子育ては本当に大変。今のように男性が積極的に育児に参加することが少なかったので自分たちの時代は職場でも肩身の狭い思いをしました。時代の変化と共に育児環境も変わってきているけど、今までの自分の経験を活かし若いお母さん方と交流することが今の生きがいです。」と語るメンバー。
一方では子育て支援を与える側と与えられる側の意思疎通が取れていない現状も指摘。時には余計なお節介も言うけどこの場に来てくれるお母さんと赤ちゃんの成長が嬉しいと、現場のふれあいの大切さを肌で感じておられました。



法吉地区のまあまさん

参加者の声！

「普段の日中は赤ちゃんと二人で家にいるので、まあまのみなさんや助産師さんに育児相談をしたり出来るありがたい場です。」
「外に出るきっかけになり、ほかの赤ちゃんの様子も見ることでよい刺激になります。」



初めて参加したママも子どもを遊ばせながら、ほかのママとの会話ははずむ！

この他にも松江のまちには子どもたちの暮らしを見守ってくれている方々がたくさんいらっしゃいます。そんな方々が一番嬉しく、やりがいを感じるのには、子どもやママ、パパたちの元気な笑顔や挨拶！

さあ、今日も、共に我が子を見守ってくれている地域の方々に、親子で元気にあいさつしましょう！

POINT!

松江市の公民館のように、乳幼児～高齢者まで幅広い対象に手厚い事業を行っているのは「松江方式」と言われるくらい珍しいのだそう。公民館主催の乳幼児の親子を対象にした事業も多い。市報と同時に配布される『公民館だより』を要チェック！（自治会に未加入世帯には配布なし）



会場はわきあいあい